

トラック輸送情報（平成17年11月分）

平成18年1月31日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：高橋、荒木、荒井 内線28315

直通：03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

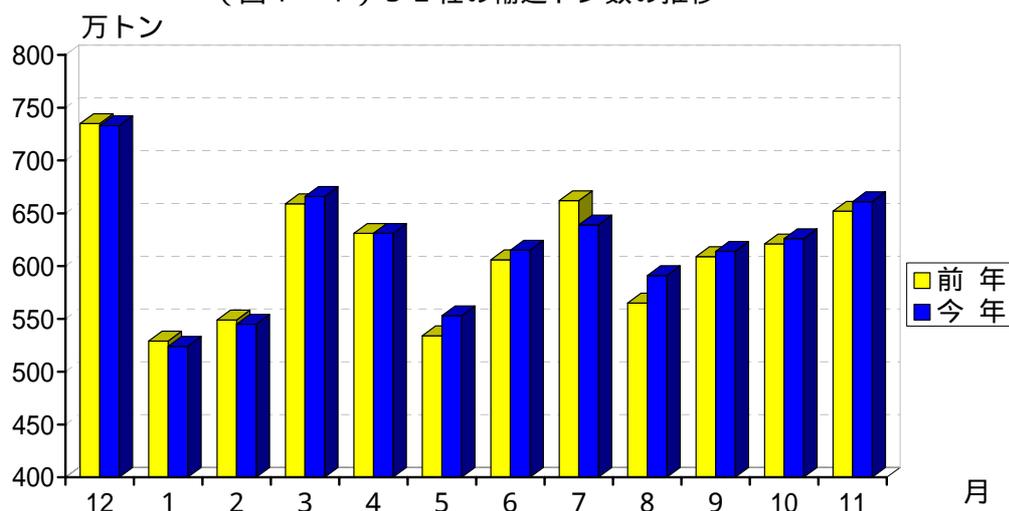
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,605,742トンで、前月と比べ、総輸送量が約34万トン増加したため、前月比105.5%（季節調整済み101.7%）前年同月と比べ、約9万トン増加したため、前年同月比101.3%の実績であった。

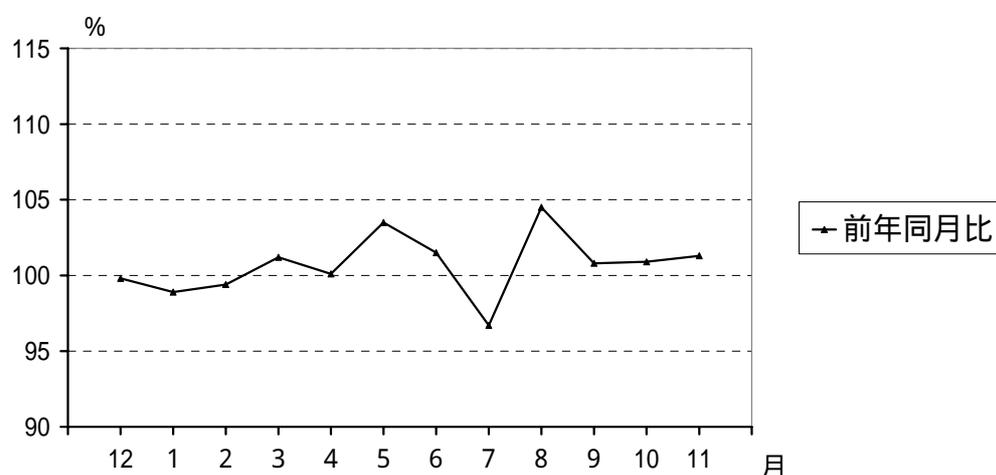
なお、平均稼働日数は23.6日で、前月と比べ0.7日の減少、前年同月比では0.2日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、279,904トンで、前月と比べ、約2万2千トン増加したため、前月比108.6%、前年同月と比べ、約6千トン増加したため、前年同月比102.2%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

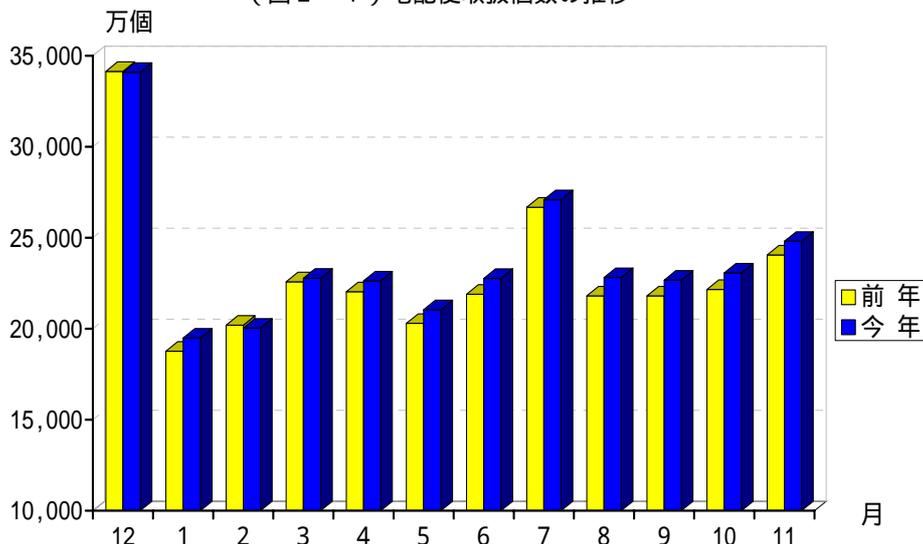


(2) 宅配便の概況

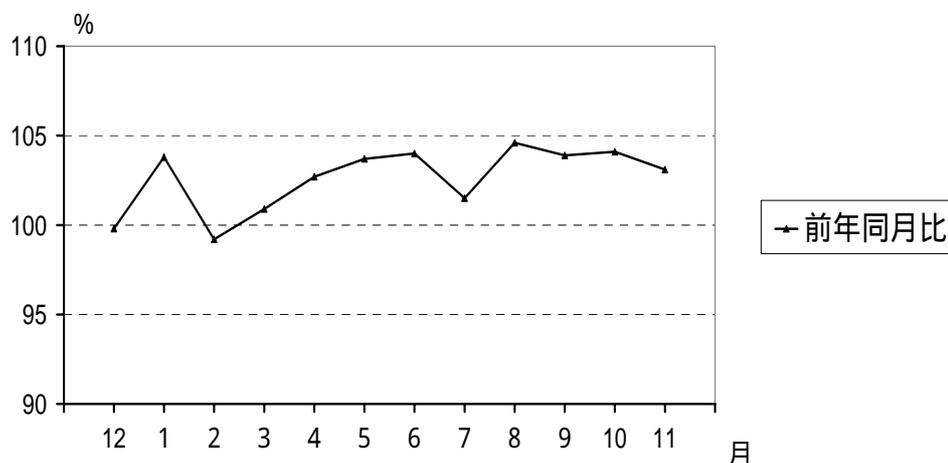
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、248,026 千個で、前月と比べ、約 1,734 万個増加したため、前月比 107.5% (季節調整済み 100.6%)、前年同月と比べると、約 745 万個増加したため、前年同月比 103.1%の実績であった。(図2 - 1、図2 - 2参照)

(注)平成 17 年 2 月より調査対象のうちの 1 社が宅配便の扱いを中止したため、宅配便調査対象が 19 社となっている。なお、当該事業者の宅配便におけるシェアが小さく(平成 17 年 1 月で全宅配便個数の約 0.02%)、影響が小さいことから、前年同月比は 20 社のデータと比較している。

(図2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、平均稼働日数は減少した一方で、稼働一日あたりの輸送量が増加したため、全ての品目で貨物量が増加した。理由としては、工場・生産地からの貨物増、季節的需要増であった。地域的には、金属製品が大阪、機械が関東、北陸信越、化学工業品が神奈川、食料工業品が関東、愛知、大阪、日用品が関東地方、近畿、その他(宅配便、百貨店配送品)が大阪を中心に、それぞれ増加した。

前年同月と比べると、機械と食料工業品で工場・生産地からの貨物増が見られた。一方で、日用品で工場・生産地からの貨物減、商社・問屋からの貨物減、倉庫から出る貨物減が見られた。地域的には、金属製品が大阪、福岡、機械が愛知、中国、食料工業品が中国でそれぞれ増加した。一方で、農水産品が東北、日用品が東北、関東、その他(百貨店配送品)が関東地方、大阪でそれぞれ減少した。この結果、全体としては対前年同月比 101.3%となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	2	13	2			4、8	
						青果物			
	金属製品		4	21	3		大阪	4、8	
							北陸信越	4	
	機械	1	8	20		機械部品	関東、北陸信越	4、8	
	化学工業品		6	21	2		神奈川、愛知、大阪、兵庫、近畿	4、7、8	
							関東		
	繊維工業品		3	24	2		中国	4	
								4	
前 年 同 月 に 比 べ て	食料工業品		11	17		その他の食料工業品、加工食品	関東、愛知、大阪	4、7、8	
	日用品	1	8	18	2	書籍・印刷物、文具、その他の日用品	関東地方、近畿	4、8	
							関東		
	その他		7	19	2	宅配便、百貨店配送品	関東地方、愛知、大阪、兵庫、全国	4、8	
							神奈川、関東		
	農水産品		1	15	2		東北		
前 年 同 月 に 比 べ て	金属製品		2	20	5		大阪、福岡	4	
						その他の金属製品	北陸信越	4	
	機械		6	19	2	1	機械部品	愛知、中国	4
						1	その他の機械		4
	化学工業品		3	22	4			4、7	
								4、7	
	繊維工業品			27	2				
	食料工業品		5	21	1	1		中国	1、4
前 年 同 月 に 比 べ て	日用品		2	16	9	1		関東	
						1	書籍・印刷物、衣服、その他の日用品	東北、関東地方、中国	4、5、7、9
	その他		3	19	6		宅配便	全国	
						宅配便、百貨店配送品	関東地方、大阪		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 806 社 / 調査対象事業者数 1,065 社）の輸送量は、前年同月比 100.6%、前月比 101.3%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	100.6%	100.5%	102.1%	102.1%	103.0%	101.0%	95.9%	98.9%	99.8%	102.9%	90.1%
前 月 比	101.3%	96.8%	103.5%	101.0%	102.1%	102.1%	103.1%	106.4%	103.6%	102.3%	100.1%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、気温の低下により灯油等の「その他の石油製品」の輸送が増加したが、一部地域を除いて各種工事の終了に伴い、「砂利・砂・石材」「セメント」等の工事関連資材の輸送が減少した。また、収穫期の終了により「野菜・果物」の輸送も減少したことから、対前月比 96.8%となった。対前年同月比は 100.5%とほぼ昨年並みを示した。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあると思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、「穀物」などの出荷需要がピークを過ぎ減少が目立った一方、冬季に備え燃料油等の「その他の石油製品」の輸送の増加が目立った。また、建設工事が増加し「砂利・砂・石材」「セメント」の輸送量が増加した。このため、対前月比 103.5%となった。また、対前年同月比は 102.1%であった。今後の輸送見通しは、次月は横ばい傾向、以降は減少傾向にあると思われる。</p>
関東	<p>本月の輸送は、「その他の窯業品」が土木工事に伴う需要により増加したのをはじめ、「野菜・果物」「動植物性飼・肥料」が増加したことから、対前月比 101.0%、対前年同月比が 102.1%となった。今後の見通しは、次月及び以降とも減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、米の収穫期終了により「穀物」に輸送の減少がみられたものの、新潟県中越地震の復旧工事の関係で、「鉄鋼」をはじめとした土木関係の品目が増加し、また、冬季に向けて「その他の石油製品」の増加が見られたことから、対前月比 102.1%、対前年同月比 103.0%とともに増加した。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい傾向、以降は減少傾向にあると思われる。</p>
中部	<p>本月の輸送は、増加品目としては、「その他の製造工業品（雑具等）」の輸送が増加し、また、建設工事の増加に伴い「機械」「セメント」の輸送が増加したことから、対前月比 102.1%と増加した。対前年同月比は 101.0%であった。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい傾向、以降は減少傾向と見込まれる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、「機械」については、冬季需要に伴い業務用空調機器の輸送が増加した。また、「食料工業品」は醤油等が増加した。このため対前月比 103.1%と増加した。対前年同月比は 95.9%と減少した。来月以降の輸送量については、次月はほぼ横ばい傾向、以降は減少傾向で推移するものと思われる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、「木材」「金属製品」「その他の石油製品」「その他の製造工業品」が、工場及び問屋等からの出荷増に伴い増加した一方、「穀物」「水産品」「食料工業品」「セメント」「紙・パルプ」は減少した。この結果、対前月比 106.4%、対前年同月比 98.9%となった。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向にあると思われる。</p>
四国	<p>本月の輸送は、気温の低下の伴い「その他の石油製品」が、また、みかんの収穫期であることから「野菜・果物」の増加が見られたほか、「紙・パルプ」「食料工業品」「動植物性飼・肥料」の増加も見られたことから、対前月比 103.6%となった。対前年同月比で 99.8%であった。今後の輸送見通しは、次月は若干の増加、以降は若干の減少傾向にあると思われる。</p>
九州	<p>本月の輸送は、「穀物」は先月に引き続き収穫物の出荷により、「砂利・砂・石材」「セメント」等の建設資材は年末に向けての工事の増加により、また、「動植物性飼料・肥料」「その他の石油製品」は季節的需要の増加により、それぞれ増加が見られた。一方、「野菜・果物」は収穫量の減少により、「食料工業品」は飲料の季節的需要減により減少が見られた。この結果、対前月比で 102.3%、対前年同月比で 102.9%となった。今後の輸送の見通しは、次月は増加すると見込まれるが、以降は減少すると見込まれる。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、「その他の農産品（菊）」「水産品（マグロ）」の輸送が増加したものの、「紙・パルプ（段ボール）」「日用品（冷凍食品）」「廃棄物（スクラップ）」「機械（中古車）」の輸送が減少した。このため、対前月比で 100.1%、対前年同月比では 90.1%の実績となった。今後の輸送見通しについては、次月は年末・年始における増加傾向が予想されるが、以降は減少傾向にあると思われる。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	道	海	道	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
1. 穀物	増	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	6
	減	1	5	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	9
2. 野菜・果物	増	1	3	2	1	0	1	0	2	4	0	0	14	
	減	6	2	1	1	0	0	0	1	7	0	18		
3. その他の農産品	増	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	5	
	減	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
4. 畜産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
5. 水産品	増	1	1	1	0	0	1	0	0	1	1	6		
	減	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4		
6. 木材	増	2	4	0	1	0	0	5	0	1	0	13		
	減	2	3	0	1	0	0	0	0	2	0	8		
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
8. 石炭	増	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2		
	減	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
10. 砂利・砂・石材	増	7	3	0	0	0	0	2	0	2	0	14		
	減	11	1	0	2	0	1	1	0	1	0	17		
11. 工業用非金属鉱物	増	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2		
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2		
12. 鉄鋼	増	1	0	0	2	0	1	1	0	2	0	7		
	減	0	1	0	0	0	2	1	0	1	0	5		
13. 非鉄金属	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
14. 金属製品	増	0	1	1	0	1	1	3	0	1	0	8		
	減	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2		
15. 機械	増	1	0	2	1	2	5	2	1	1	0	15		
	減	0	0	0	0	1	2	2	0	1	1	7		
16. セメント	増	0	2	0	1	2	0	0	1	6	0	12		
	減	4	1	0	1	0	0	1	0	4	0	11		
17. その他の窯業品	増	0	1	2	2	0	0	1	1	1	0	8		
	減	0	2	0	1	1	1	0	0	1	0	6		

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	0	1	0	2	0	0	0	1	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19. その他の石油製品	増	4	5	1	4	0	0	4	1	2	0	21
	減	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
21. 化学薬品	増	0	0	0	2	1	0	1	1	0	0	5
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
22. 化学肥料	増	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	減	2	1	0	0	0	0	0	0	2	0	5
23. その他の化学工業品	増	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	3
	減	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
24. 紙・パルプ	増	1	0	1	1	0	1	0	2	1	0	7
	減	0	0	2	1	1	1	1	0	1	1	8
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
26. 食料工業品	増	2	3	0	1	0	2	1	2	2	0	13
	減	1	1	0	0	0	1	2	1	5	0	11
27. 日用品	増	0	1	0	0	0	0	2	1	1	0	5
	減	3	0	0	0	1	2	0	0	1	1	8
28. その他の製造工業品	増	0	1	0	0	3	1	4	0	2	0	11
	減	0	0	2	0	1	1	0	0	2	0	6
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	0	1	2	0	0	0	0	2	4	0	9
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
32. 廃棄物	増	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
33. 輸送用容器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取り合せ品	増	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3
	減	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
35. その他	増	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	3
	減	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2